

座間味の振興 沖繩公庫支援

村と協定締結

座間味村（宮里哲村長）と沖繩振興開発金融公庫（川上好久理事長）は7日、「座間味地域振興プロジェクト助言業務に関する協定」を締結した。

村の地域振興の基本計画や「むらづくり」の取り組みに参画し助言するほか、島内で起業を目指す人の創業を支援する。

助言業務に関する協定の締



結は本件で12市町村目。座間味村は「慶良間諸島国立公園」に指定されて以来入域者数は毎年増加。今後は自然や文化など豊富な観光財源の活用と

住民の視点に立った街づくりの双方が求められる。

宮里村長は「行政がビジョンを持って土地を守りながら商業地形成をする必要がある。地域が直面する新しい課題に公庫と一体となって取り組みたい」と期待を込めた。

川上理事長は「村と緊密に連携を取り、地域振興を手伝いたい」と述べた。

.....
助言業務協定を結んだ宮里哲座間味村長（右）と沖繩振興開発金融公庫の川上好久理事長（左）7日、那覇市、沖繩振興開発金融公庫

座間味村と公庫 地域振興で協定

専門分野で助言

座間味村（宮里哲村長）

と沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は7日、「座間味村地域振興プロジェクト助言業務に関する協定」を締結した。国立



協定を締結した座間味村の宮里哲村長（右）と沖縄振興開発金融公庫の川上好久理事長（左）は7日、那覇市の同公庫

公庫として海外からの評価も高まる同村の地域振興事業に対して、構想や企画段階から公庫の担当者が専門的な分野から助言する。

公庫との連携は12市町村目で、本島周辺の小規模離島では初めて。宮里村長は「将来性のある離島観光地を目指し、公庫との連携を強化して産業成長と人口増加につなげたい」と語った。

座間味村は2014年3月に国立公園に指定され、入域観光客数が3年連続で10万人を超える見込み。世界水準のブランド化など専門性の高い政策が求められているといい、川上理事長は「ノウハウを生かして緊密に連携したい」と述べた。